

岡山県感染症週報

2012 年 第 28 週（7 月 9 日～7 月 15 日）

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2012 年 第 28 週（7/9～7/15）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 26 週 2 類感染症 結核 2 名（50 代 女 1 名、80 代 女 1 名）
 第 27 週 2 類感染症 結核 3 名（20 代 女 1 名、80 代 男 1 名、90 代 女 1 名）
 第 28 週 2 類感染症 結核 4 名（20 代 男 1 名、50 代 女 1 名、60 代 男 1 名、80 代 男 1 名）

■定点把握感染症の発生状況

- ヘルパンギーナは、第 24 週以降 5 週連続で増加しています。
- 手足口病は、前週とほぼ同数でした。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、今年は第 28 週までに 18 名の発生がありました。岡山県では「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を発令し、注意喚起を図っています。例年 7 月・8 月は 1 年で最も発生が多くなります。食品の取り扱いに注意し、食品は 10℃以下で保存する、加熱してから食べるなど、ひきつづき感染予防に努めましょう。症状や予防法など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中！**』をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、第 24 週以降 5 週連続で増加がつづいています。今後も増加が懸念されますので、県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めて下さい。詳しい症状などは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **手足口病**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数で（定点あたり 0.44 → 0.41 人）、過去 10 年の同時期に比べ患者は少数で推移しています。また、全国集計でも同様な傾向ですが、第 19 週以降増加がつづいています。

（国立感染症情報センター「[注目すべき感染症 手足口病](#)」第 26 週）

カンボジアでは原因不明の病気が小児に発生し、患者検体からかなりの割合でエンテロウイルス 71 型（EV71）が検出されたと報告されています。EV71 は手足口病を起こすウイルスで、重症の合併症を起こすことがあります。日本では、2012 年に全国の手足口病患者から検出されたウイルスは、コクサッキーウイルス A16 型が 44.1%と最も多く、EV71 の検出は 3 件と少数です。（国立感染症情報センター [手足口病患者から検出されているウイルス 2012 年 7 月 5 日現在](#)）

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↓	
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	↗	★★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↗	★
ヘルパンギーナ	↗	★★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	↓		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↓	
マイコプラズマ肺炎	↗	★★	クラミジア肺炎	↑	★★

流行の推移と発生状況

【記号の説明】

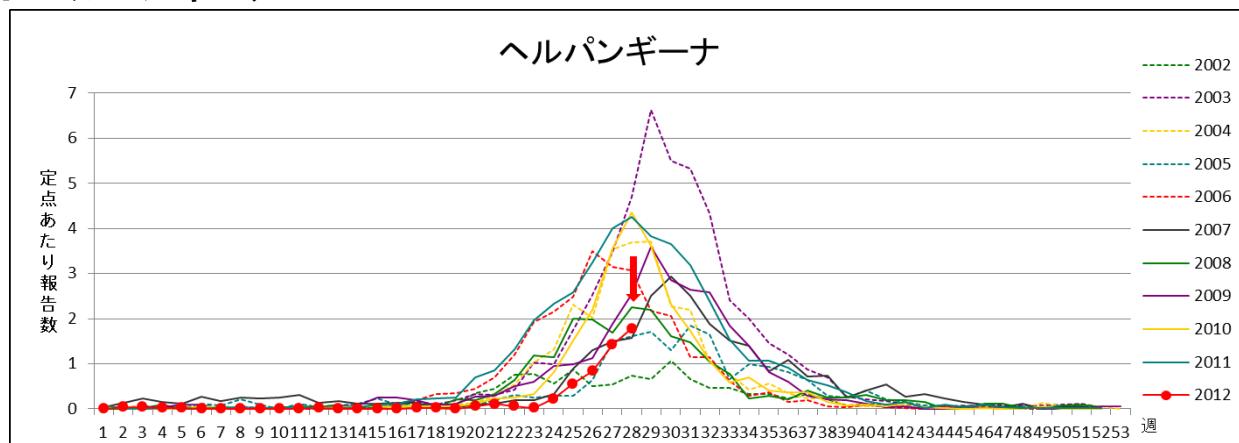
前週からの推移： ↓ ： 2 倍以上の減少 ↘ ： 1.1～2 倍未満の減少 → ： 1.1 未満の増減
 ↗ ： 1.1～2 倍未満の増加 ↑ ： 2 倍以上の増加

発生状況： 空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

※今週の流行状況を過去 5 年間と比較し、5 段階で表示しています。

今週の注目感染症

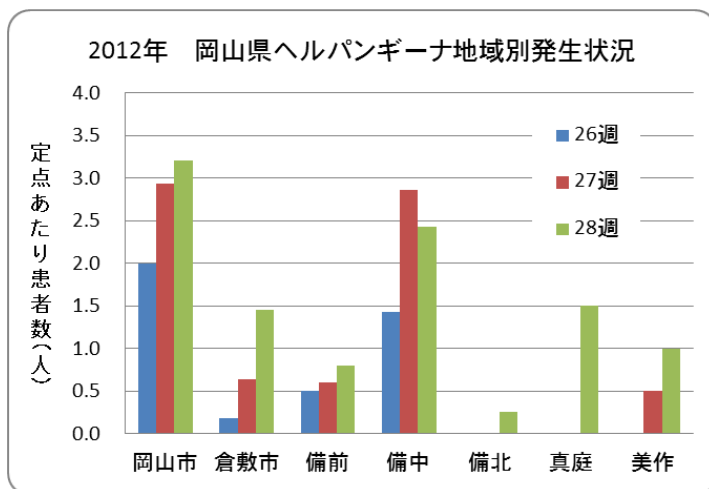
1. ヘルパンギーナ



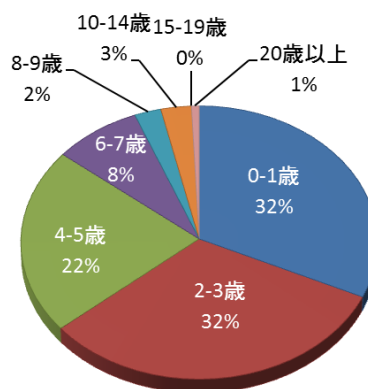
ヘルパンギーナは、定点あたり患者報告数が第24週以降5週連続で増加しました（前週からの増減 定点あたり1.43 → 1.78人）。

地域別では、岡山市（3.21人）、備中地域（2.43人）など県南部で患者が多く見られます。また、前週まで発生がなかった備北地域、真庭地域でも患者が報告され、県全域に流行が拡大しつつあると思われます。年齢別では0～3歳の乳幼児が全体の約64%を占め、5歳以下を中心に感染が拡大しています。

ヘルパンギーナの流行のピークは7月中旬以降となることが多いと言われています。今後も患者の増加が懸念されますので、県内の発生状況に注意し、手洗いを行うなど感染予防に努めましょう。体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。



2012年 岡山県ヘルパンギーナ患者の年齢分布
(2012年 第1週～第28週)



【ヘルパンギーナとは】

夏に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。

突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径1～2mmの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんや髄膜炎を伴うことがあります。

主な感染経路は、患者との濃厚接触や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染です。症状が治まっても、便の中には2～4週間ウイルスが排泄されることがあります。

ウイルスに特異的な治療法はなく、対症療法が中心となりますが、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる場合がありますので注意が必要です。

保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行し、おむつや便の取り扱いに注意して、感染予防と拡大防止に努めましょう。

2. 風しん

風しんは、2012年第1～27週（2012/7/11 現在）の全国累計報告数が594例であり、これまで1年間の累積報告数が最も多かった2011年の371例をすでに越えています。都道府県別では、兵庫県、大阪府などの近畿地方と、東京都、神奈川県などの関東地方で発生が多くなっています。5月から6月は近畿地方で患者が多数発生していましたが、7月に入り関東地方で増加が見られます。

男女別では、男性が460例（77%）、女性134例（23%）と、男性が女性の3倍以上報告され、男性は20代～40代、女性は10代～30代が多くを占めています。（[国立感染症情報センター 感染症発生動向調査 風しん第27週](#)）

2012年、岡山県では、6月に30～40代の男性3例の発生があり、県内での流行が懸念されましたが、その後現在まで大きな流行には至っていません。

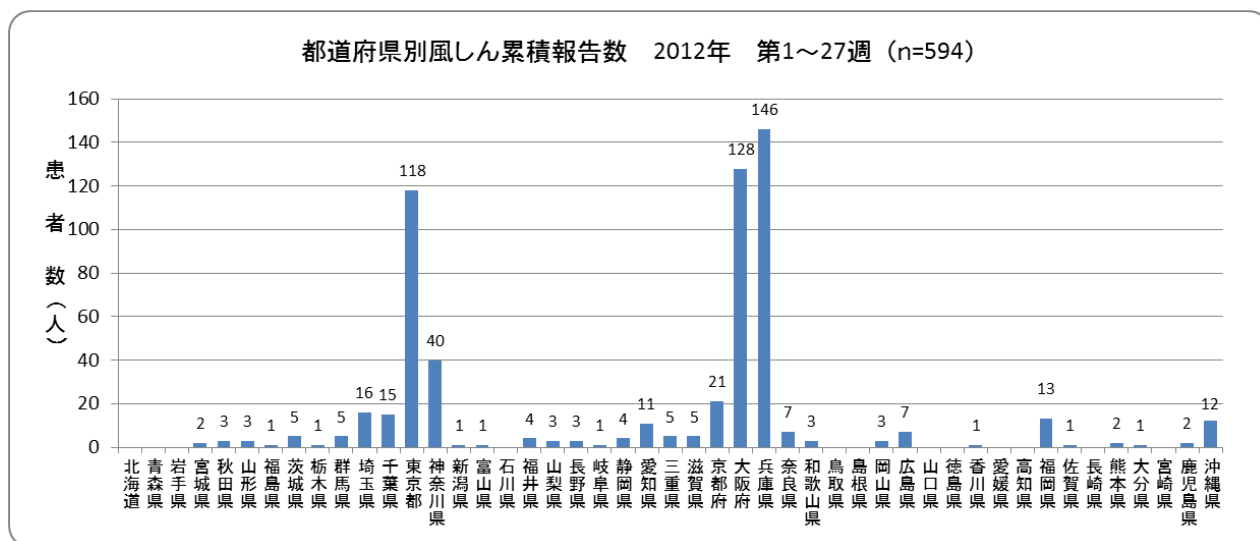
夏休みに入り、人の移動も多くなり、風しんの発生が多い地域に出掛ける機会もあるかと思われます。県内での発生は少数にとどまっていますが、今後も風しんには十分にご注意ください。

【風しん】

風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、「発熱・発疹・リンパ節腫脹」を特徴とするウイルス性発疹症です。予後は良好ですが、免疫のない女性が妊娠初期に風しんにかかると風しんウイルスが胎児にも感染し、出生時に白内障、先天性心疾患、難聴や、精神や身体の発達の遅れなどの障害をもたらす先天性風しん症候群と総称される障害を引き起こすことがあり、注意が必要です。

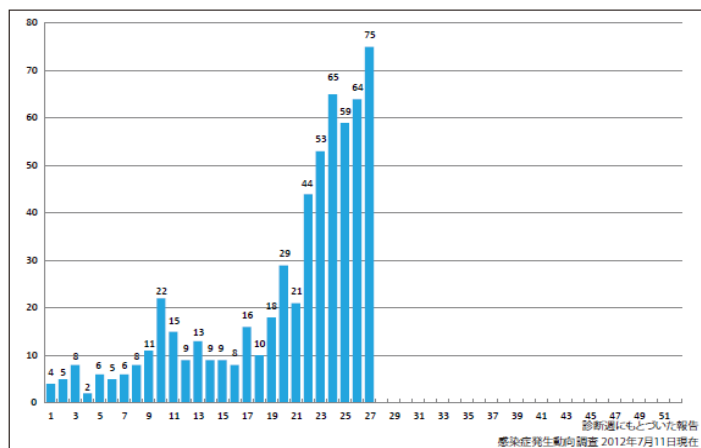
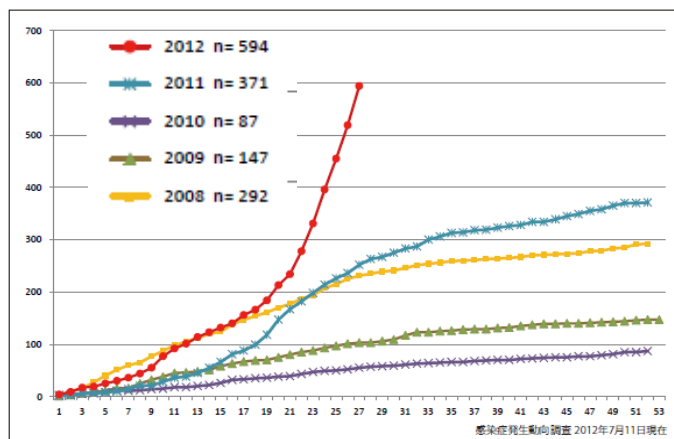
特異的な治療法はなく、予防には、ワクチン接種が最も効果的です。風しんの予防接種は、1995年以前は女子中学生のみを対象に行われていました。このため予防接種歴のない成人男性が多く、この男性が自然感染したときには、周りの妊娠中のお母さんなどにうつしてしまうことがあります。その結果、生まれてくる赤ちゃんが先天性風しん症候群と診断されるリスクが生じます。風しんから身を守り、家族への感染を予防し、これからのこどもを先天性風しん症候群から守るためにも、男女とも可能な限り早く風疹の予防接種を受けることをお勧めします。

（[国立感染症研究所 風しんQ&A](#)）



風しん累積報告数の推移 2008～2012年（第1～27週）
（国立感染症研究所 HP より）

週別風しん報告数 2012年 第1～27週 (n=594)
（国立感染症研究所 HP より）



保健所別報告患者数 2012年 28週 (2012/07/09～2012/07/15)

2012年7月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	17	0.31	11	0.79	3	0.27	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	6	0.43	14	1.27	1	0.10	5	0.71	—	—	2	1.00	11	1.83
感染性胃腸炎	277	5.13	41	2.93	66	6.00	87	8.70	18	2.57	15	3.75	13	6.50	37	6.17
水痘	42	0.78	10	0.71	6	0.55	8	0.80	9	1.29	—	—	1	0.50	8	1.33
手足口病	22	0.41	8	0.57	10	0.91	3	0.30	—	—	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	11	0.20	1	0.07	2	0.18	3	0.30	2	0.29	3	0.75	—	—	—	—
突発性発疹	28	0.52	17	1.21	6	0.55	2	0.20	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	96	1.78	45	3.21	16	1.45	8	0.80	17	2.43	1	0.25	3	1.50	6	1.00
流行性耳下腺炎	31	0.57	13	0.93	10	0.91	5	0.50	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	5	5.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	3	0.60	—	—	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 28週 (2012/07/09～2012/07/15)

2012年7月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	17	0.31	11	0.79	3	0.27	—	—	1	0.14	1	0.25	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	6	0.43	14	1.27	1	0.10	5	0.71	—	—	2	1.00	11	1.83
感染性胃腸炎	277	5.13	41	2.93	66	6.00	87	8.70	18	2.57	15	3.75	13	6.50	37	6.17
水痘	42	0.78	10	0.71	6	0.55	8	0.80	9	1.29	—	—	1	0.50	8	1.33
手足口病	22	0.41	8	0.57	10	0.91	3	0.30	—	—	—	—	1	0.50	—	—
伝染性紅斑	11	0.20	1	0.07	2	0.18	3	0.30	2	0.29	3	0.75	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	96	1.78	45	3.21	16	1.45	8	0.80	17	2.43	1	0.25	3	1.50	6	1.00
流行性耳下腺炎	31	0.57	13	0.93	10	0.91	5	0.50	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	0.25	1	0.20	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第28週 2012/07/09～2012/07/15)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	17	-	-	4	4	4	2	-	1	-	2	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	4	3	8	6	6	3	2	3	2	2	-	-
感染性胃腸炎	277	3	19	46	25	30	31	24	14	13	7	8	33	4	20
水痘	42	-	1	8	10	4	9	3	4	1	-	2	-	-	-
手足口病	22	1	-	8	2	7	1	2	-	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	11	-	-	-	2	1	-	3	1	-	2	-	2	-	-
突発性発疹	28	-	10	16	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	96	-	2	20	21	11	17	11	5	3	1	3	1	-	1
流行性耳下腺炎	31	-	-	2	1	2	10	6	1	5	1	-	2	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1

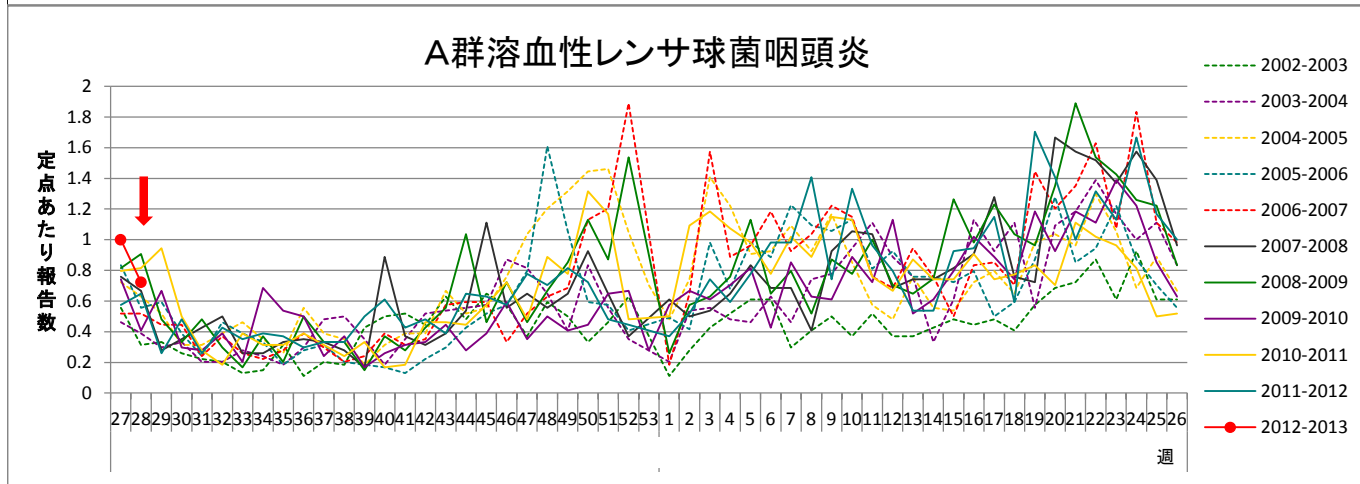
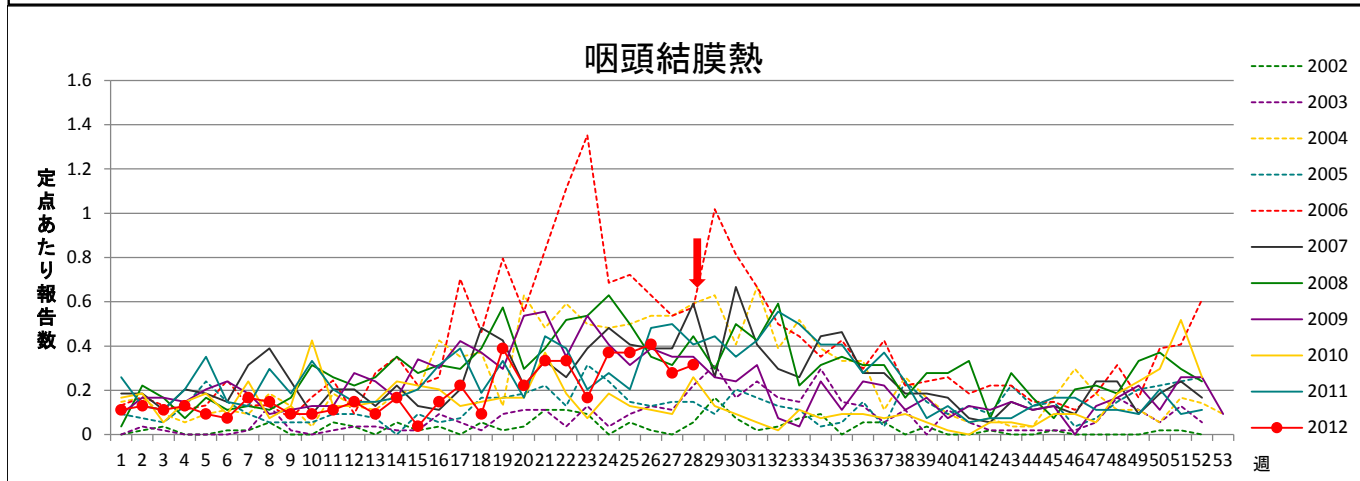
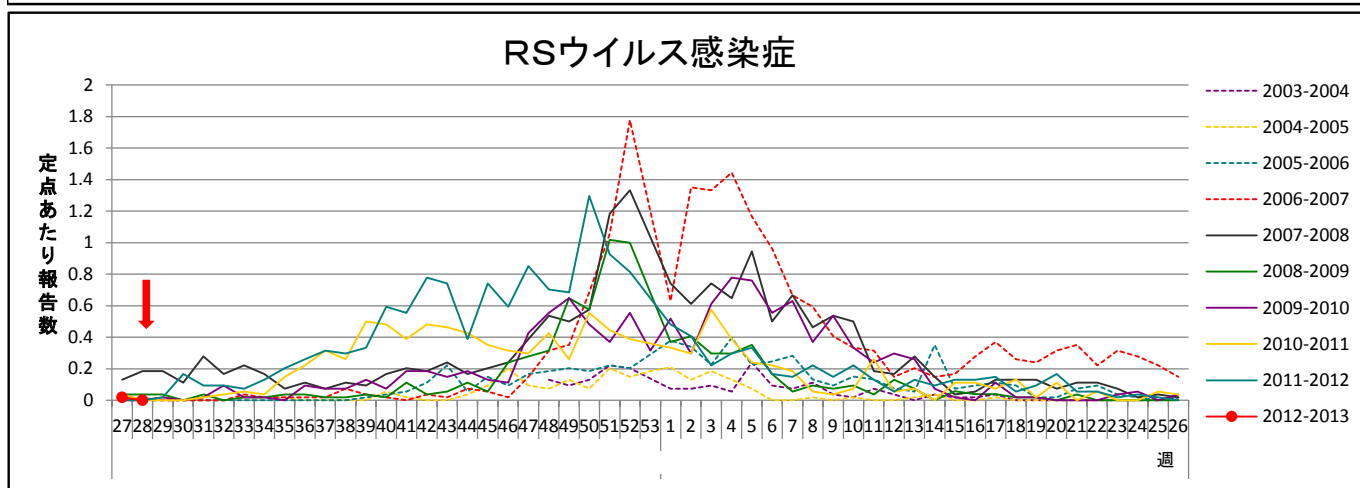
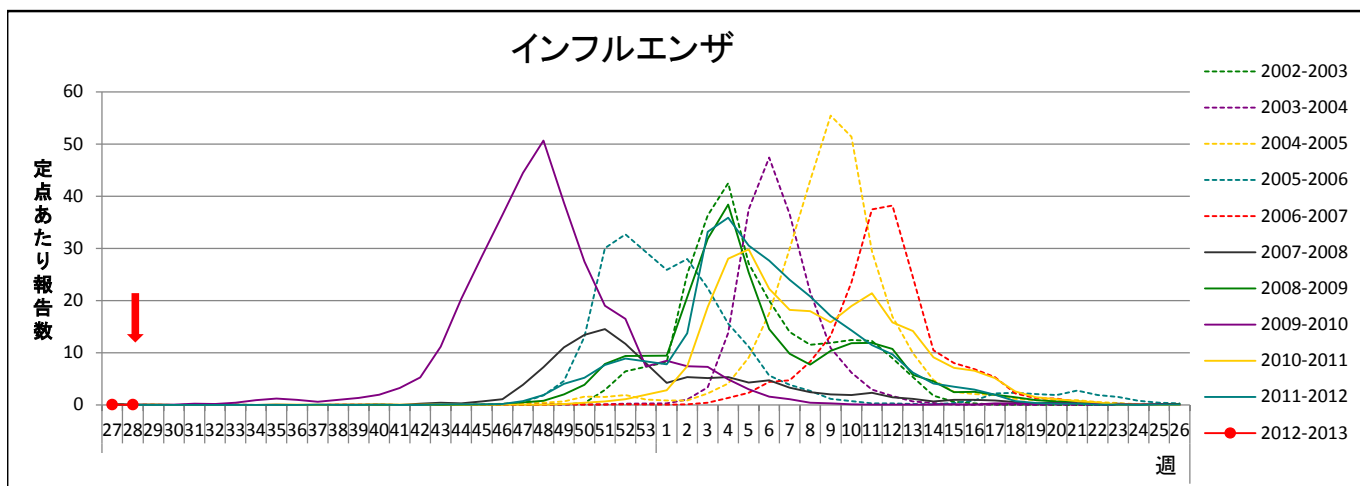
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

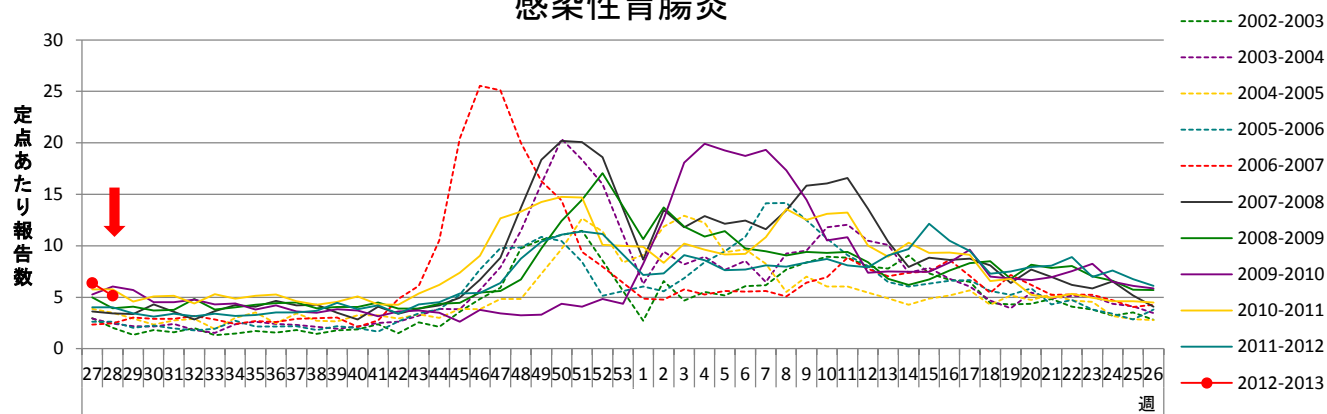
全数把握 感染症患者発生状況

2012 年 28 週

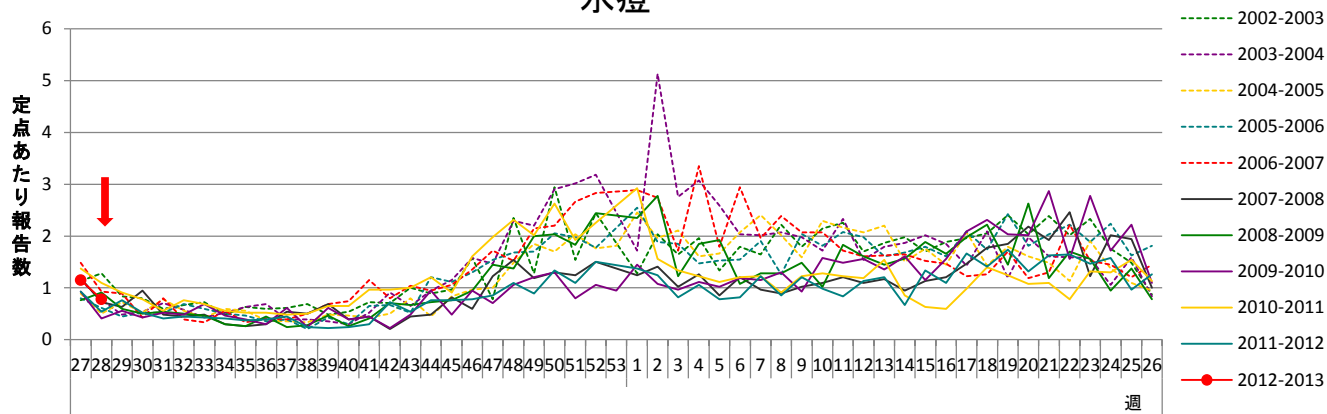
分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	239	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	18	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	1	3	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	12	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	9	11	ウイルス性肝炎*3	-	3	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	8	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	3	9	破傷風	-	-	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	3	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-



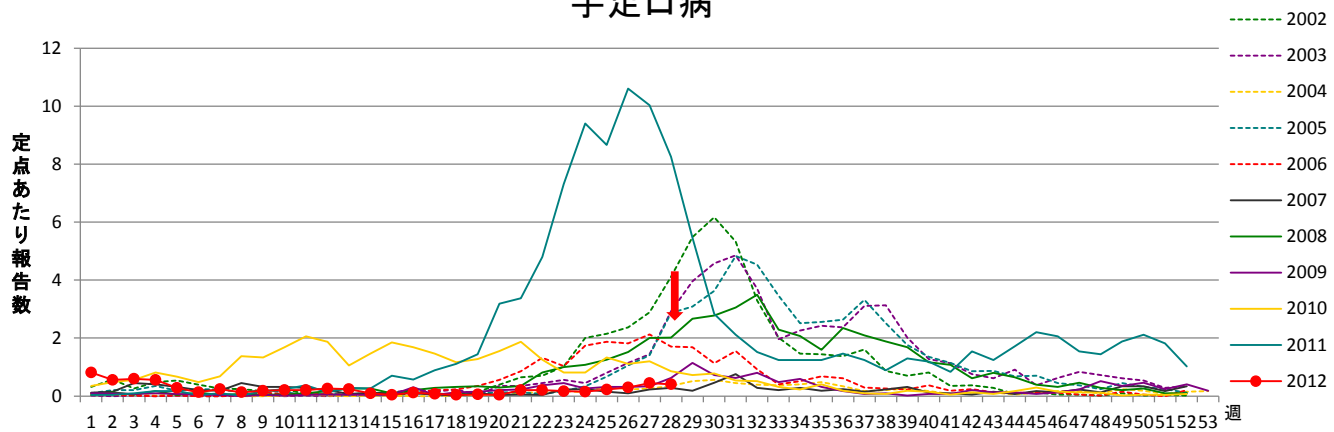
感染性胃腸炎



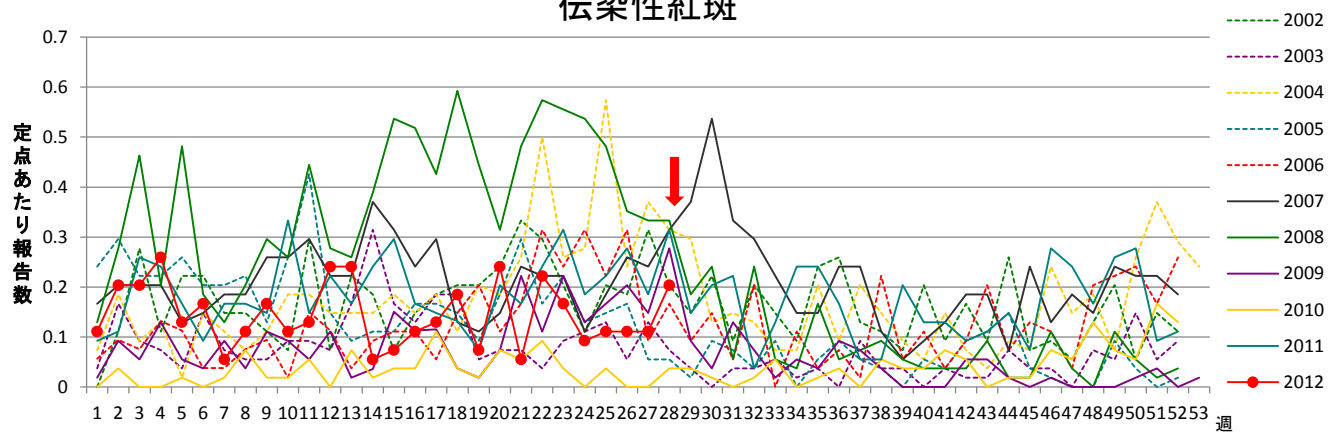
水痘



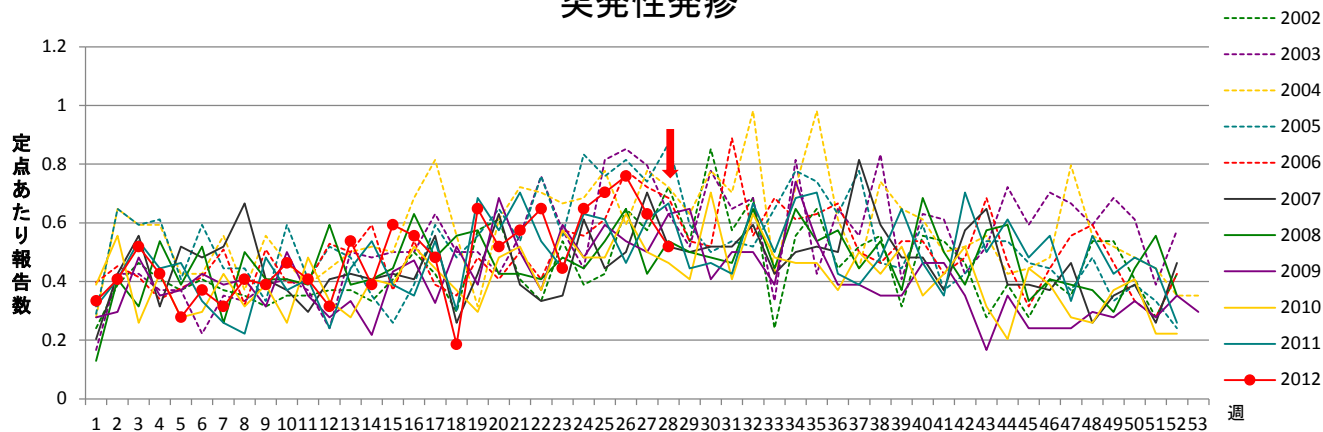
手足口病



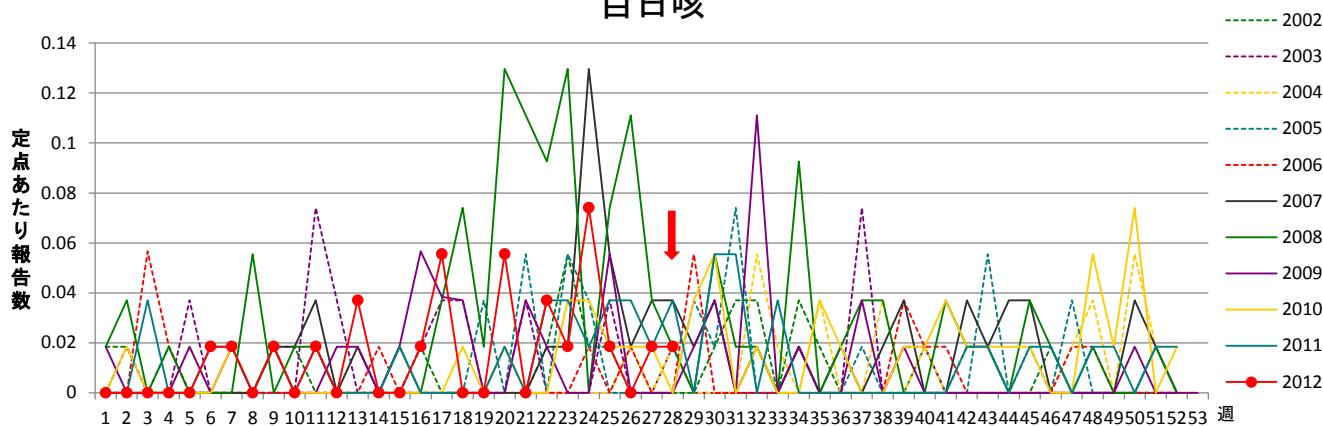
伝染性紅斑



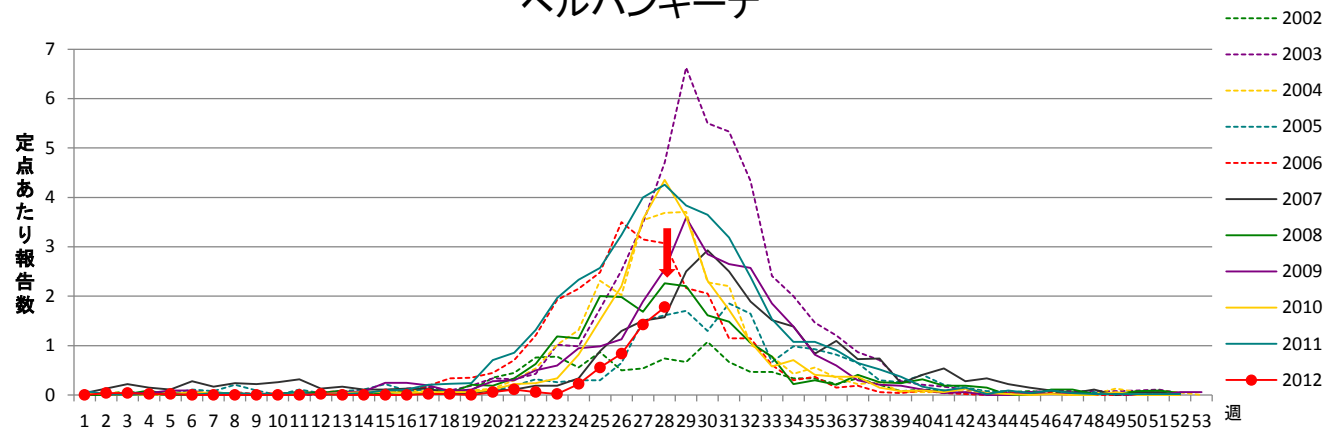
突発性発疹



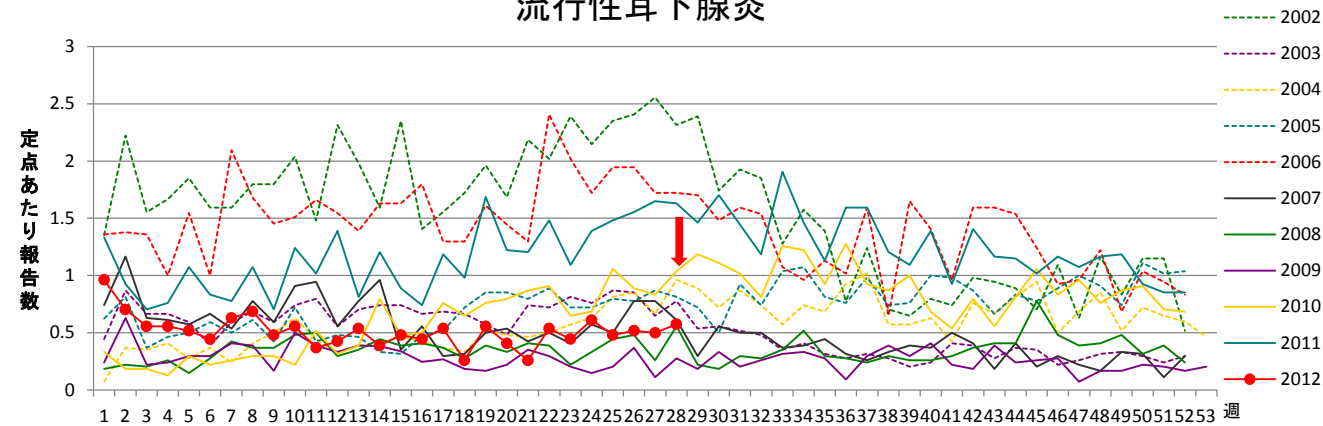
百日咳



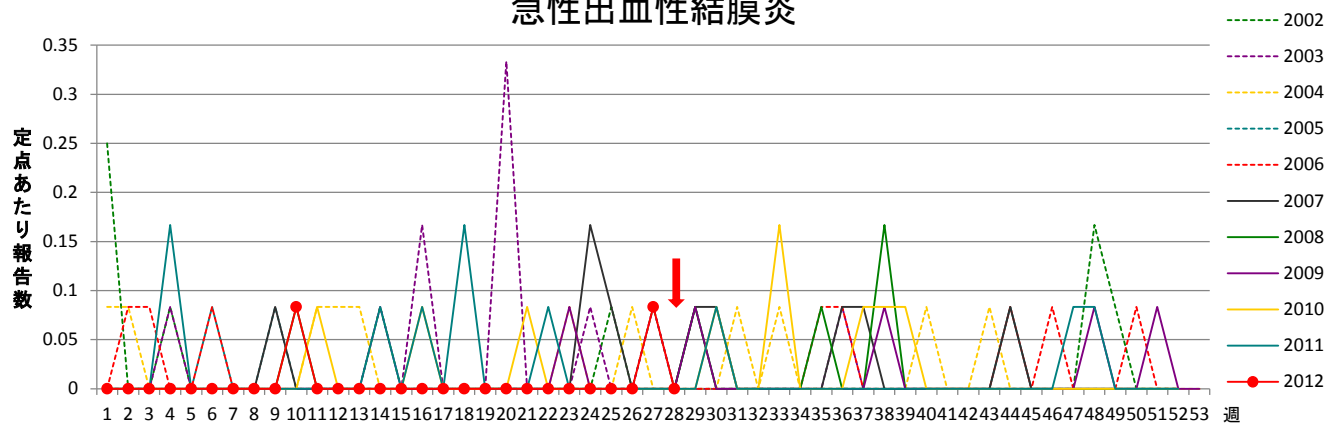
ヘルパンギーナ



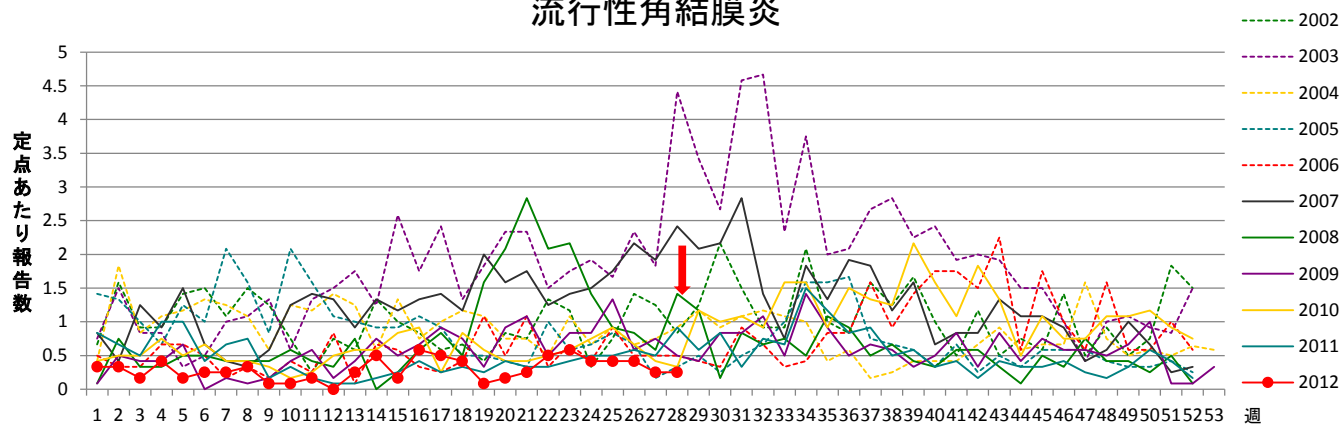
流行性耳下腺炎



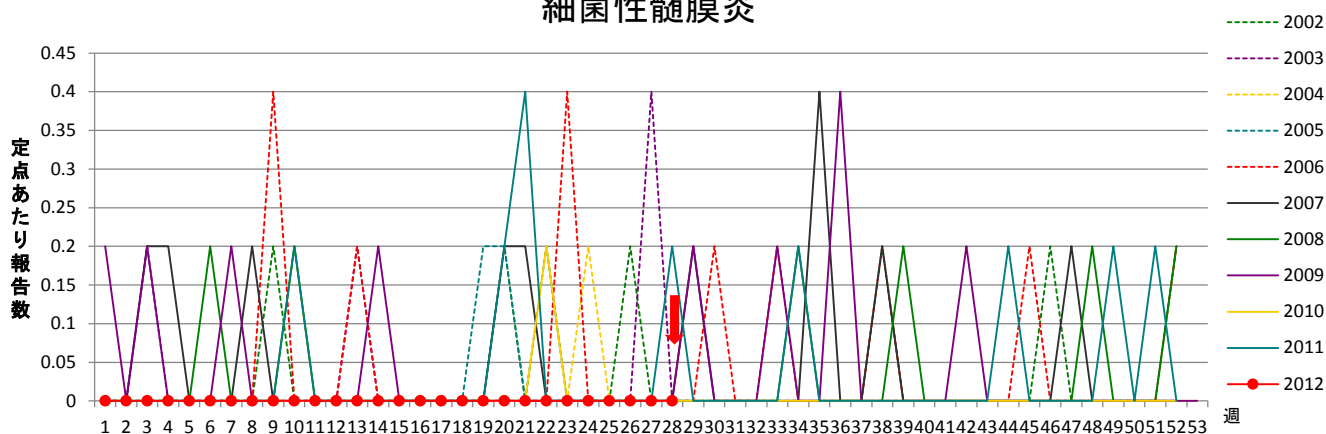
急性出血性結膜炎



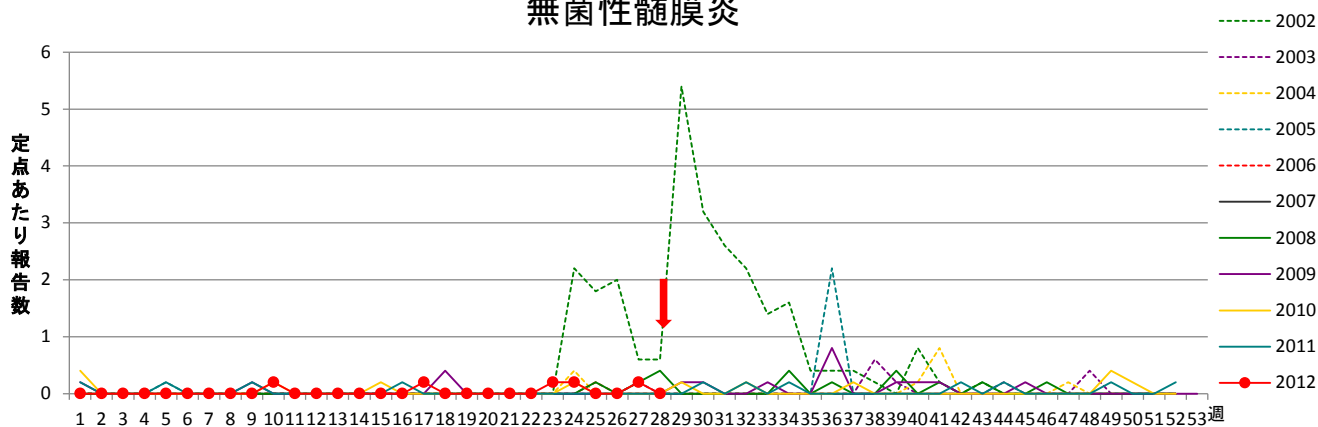
流行性角結膜炎



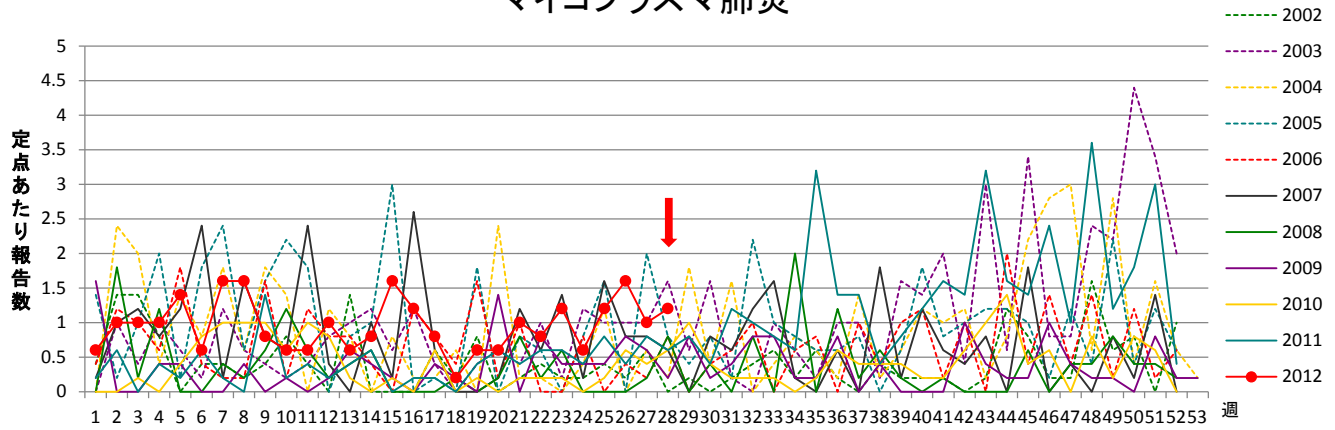
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

